



③



この連載チームでは、毎月「てらスクール」の執筆活動に加えて、リアルイベントへの参加も挑戦しています。4月15日、16日には日本最大級の環境フェスであるアースデイ東京2023にブース出展をしました。コロナの規制が解除され、会場はかつての活気が戻っていました。

The Third Year

チームのメンバーは、今までの「てらスクール」の冊子を紹介したり、アフリカの布ナプキンプロジェクトに向けての材料作りや、メンバー募集を二日間、実施しました。イベントに参加することを通じて発信したかったことや、参加することで見えたことについて執筆してもらいました。



○るーな
・高校1年生

環境問題には真面目な人が取り組むもの、という考え方を壊してくれるようなこのアースデイのイベントで、私は楽しみながら環境問題に取り組んでいくことの良さを再発見できました。私ももっと

自分の楽しい気持ちを多くの人に伝えていきたいと感じました。また、てらスクールTシャツ作りでは新ロゴをデザインさせていただきました。人々の繋がりが、そしてその上でのSDGsの達成やより良い未来というイメージを形にしたいと思い、仏教の法輪やSDGsの色を使ったデザインにしました。「made in earth」との繋がりにも助けられ、本当に思いのこもったものを作れたと思います！



○ぶりん
・高校2年生

私は初めてアースデイに参加しました。堅苦しいイベントなのか





メイド イン アース「made in earth」さんにTシャツ提供のお礼

と勝手に思い込んでいました。ですが、会場に着いたときに予想と違い、驚きました。環境問題だからと堅苦しく考えるイベントではなく、環境問題について知ってる人や知らない人、考えたことが無

い人でも楽しめるそんなイベントでした。また、いろいろな団体がいたからこそ、私はキャンプや地域復興などの活動にも興味を広がりました。最後に、てらスクールTシャツ。作りでは、「made in earth」さんと関わりがあったからこそ作ることができました。これからもその感謝を忘れずに関わり合っていきたいです。



○ののは
・中学3年生

今回私は、自分の中学校の団体出展があったため、アーステイの準備の方で貢献しました。

「てらスクール」オリジナルのTシャツを作るため、コットン100%

のTシャツを「made in earth」さんに提供していただき、和綿栽培の難しさなどのお話もしていただきました。そして、他の編集学生が考えてくれたデザインを、Tシャツにプリントしました。

完成してアーステイ当日にチームのメンバーに渡すと、みんな喜んでくれ、またみんなで着れたことがすごく嬉しかったです。

Tシャツ作りから渡すまでを改めて振り返って、一つのワークショップをやるにあたり、準備という面からも一緒に作り上げることもできるということを実感しました。





○Kako
高校2年生

アースデイで、背面にQRコードが印刷されたベージュ色のTシャツを着た人を見かけたでしょうか？ このTシャツは我々「てらスクール」メンバーが着用していました。

私はプロジェクトの出展をしながら、「てらスクール」では「made in earth」様から提供いただいたTシャツのデザインを担当しました。定例ミーティングでふと思い付いた「オリジナルTシャツを着て、我々を知ってもらおう」というアイデアをメンバーのみんなに協力してもらい実現することができました。

○ほら
大学3年生

私はプロジェクトの出展をしながら、「てらスクール」では「made in earth」様から提供いただいたTシャツのデザインを担当しました。定例ミーティングでふと思い付いた「オリジナルTシャツを着て、我々を知ってもらおう」というアイデアをメンバーのみんなに協力してもらい実現することができました。

私はピラ配りの時に来場者の方へ積極的に話しかけていきました。すると、世代を問わず、布ナプキンを知らない方が多い印象でした。布ナプキンの存在を知っていても生理で学校に行けなくなる女の子たちがいることを知らない方がほとんどでした。なので、今回のブース出展で知らない層へアプローチでき、とてもやりがいを感じました。来場者の方の中に、私と同じ大学生で国際ボランティアをされている方と出会い、何かが生まれそうなワクワクと期待感を抱いています。人との出会いがきっかけになる、そのきっかけを生んだ今回のアースデイは、私の中で大きな体験となりました。

